

令和 6 年度生徒指導サポート実践校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島県立安芸南高等学校	校長	三保 光成	生徒指導主事	藤井 潔
取組事例名	『安芸南（あきなん）体育大会』				

1 取組の設定

取組を実施する意図及びねらい	取組を通して育てたい児童生徒像
①全校で協力して実施運営することにより、協同することの大切さを学ばせるため。 ②様々な人との関わり合いの中で、社交性や積極性、コミュニケーション能力の向上を図るため。 ③①②を通して、健康増進や体力向上と同時に、安芸南高校の一員としての自覚と誇りを持たせるため。	①一つ一つの場面に自ら課題意識を持ち、他と協力しながらその解決策を考え実行できる生徒。 ②自らの考えを伝えたり他人の意見を尊重して物事を進めることができる生徒。



2 展開

取組の具体的内容	取組の創意工夫
①準備：生徒会・部活動生徒を中心として、種目の選定から当日の運営までの企画・運営を行う。 ②集団行動：笛による号令に合わせ、生徒個々が自己の役割を考え、瞬時に判断して周囲との調和を図りつつ身体で表現する。 ③校歌行進：②の応用編。校歌を歌いながら行進したり止まったり、回ったりして隊形の変化を作る。	生徒にめあてをもたせるために 入学当初の合宿や授業時に、上級生の演技を動画で見せて憧れを抱かせる。
	生徒の意欲を高めるために 最初は「一人」で「単純な動作」から始めて、最終的には複合的な動作を集団で、というようにスモールステップで進める。
	生徒の頑張りを認め、価値付けるために 事後の教職員の声かけによる評価とドローン撮影の動画視聴、アンケート調査の結果のフィードバック等を行う。



3 成果と課題

成果：①個人個人バラバラで動くというレベルから、練習を進めていくうちに、前の人と動きや位置が合っているか、隣の人と動きや位置が合っているか、などに配慮できるようになり、集団で一つの動きにするための意識を植え付けることができた。

②自己に自信がなく積極的な行動が苦手な傾向のある本校の生徒であるが、事後には「初めはどうせ誰かが声を出さだろうという気持ちがあったが、途中からはわからないところをみんなで教え合ったり、全体を見回しながら合わせようと意識したりしながら、みんなで良いものにしようとすることができた」という感想がみられた。

課題：①各部活で構成されている係ごとの動きは事前に確認していたが、横の連携が十分とれていなかった。生徒に、主体的に自己決定させ協働させていくためのしかけとして、事前の他係との十分な話し合い等の時間を取ることが必要だと考える。



校歌を歌いながら隊形を崩さないように200人で交差する様子は圧巻です。